

a 学校教育目標		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) ・自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校										
評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	個別最適な学びに向けた授業改善 選択肢と自己決定自由進度学習 学習者用情報端末の活用による授業改善	・個別最適な学びの実践 ・学習者用情報端末活用による積極的な授業改善 ・学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定、小中連携による授業研究) ・共に学ぶ集団づくり	①自己選択・自己決定の場を工夫した授業を1学期に1回以上行う。 ②校内検定テストにおいて目標値85%以上達成した児童の割合を80%以上にする。 ③QUの結果をもとに、学級指導を行い、要支援児童の割合を減らす。 ④担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①100% ②校内検定テストにおいて目標値85%以上達成した児童の割合を80%以上にする。 ③前期実施の該当数を後期に減少させる。 ④各学期1回以上	①授業実施率100% ②校内検定漢字84%(前年比-9%) 算数74%(前年比-14%) ③要支援児童(通常学級・特別支援:計9学級)4月…3人 ④100%	①100% ②91% ④100%	①A ②B ④A	①全学級で自由進度学習を1回以取り組むことができた。 ②少なくとも目標値85%を達成する児童の割合が多かった。練習をする機会や学び直しの時間を余裕をもって取り組むと必要であった。 ③昨年度より要支援児童が減っている。個別に対応する必要がある児童は、積極的に生徒指導会議等で交流したり、家庭との連携を図る必要がある。 ④全学級で日々の学習や、自由進度学習などにICT端末を取り入れた学習を行うことができた。	①授業の中の手立てだけでなく、振り返り等を充実させることで、よりよい授業改善を目指す。 ②家庭学習や個別の指導等で、計画的に学び直しを行わせることにより、校内検定の平均正答率を伸ばす。 ③QUの分析結果をもとに、重点的に支援する児童を決め、月に1度の生徒指導委員会で取組を全教職員で交流していく。 ④今後も取組を継続し、学習者用情報端末を使った実践事例を交流し、授業改善を進めている。	○			・研究会や授業参観で児童が、お互いに教えあう様子を見られたことがよかった。 ・自由進度学習で児童の学びの意欲や主体性を引き出していることが今後の学びの姿に現れることを期待する。 ・学力向上を図るため、成長段階に応じた指導を実行している。
			家庭学習の充実による学力定着 家庭学習の見直し	・家庭学習の習慣化 ・学び方指導の充実	①児童一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②学習チャレンジデーにおいて自己課題を明確にして自主学習を行わせる。	①100% ②100%	①93.2% ②74%	①93.2% ②74%	①B ②C	①学習チャレンジデーや自由進度学習を通して、個に応じて課題を工夫する意識が高まった。 ②課題を明確にして取り組む意識が定着できていない児童がいる。	①今後も取組を継続する。 ②授業等で課題づくりに取り組ませたり、テストなどを見据えて計画的に学習を振り返りできるように声かけをしたりし、課題を明確にすることの意識を高める。	○		
豊かな心	自己肯定感が高い豊かな子どもの育成	不登校の未然防止 基本的な生活習慣の確立 地域を教材とした学習活動の充実	・SSRの活用、相談体制の充実、小中連携の充実 ・児童会による自治活動の充実 ・生徒指導の三機能を生かした指導生活上の基本的指導を徹底(時間挨拶 掃除)	①不登校等児童生徒支援会議の計画的な実施 ②児童アンケートを全学年で実施する。 「自分から進んで挨拶をした。」 「よりよい学校、学級にしようがんばっている。」	①週1回以上 ②肯定的な回答90%以上	①計画に沿って小中合同での不登校等児童生徒支援会議を行うことができた。また、小学校職員全員で月に1回生徒指導委員会を実施できた。 ②「自分から進んで挨拶をした。」低学年92.9% 中・高学年86.0% 全校87.7% ③「よりよい学校、学級にしようがんばっている。」低学年92.9% 中・高学年86.0% 全校87.7% ④「よりよい学校、学級にしようがんばっている。」低学年92.9% 中・高学年86.0% 全校85.6%	①計画に沿って実施100% ②「自分から進んで挨拶をした。」について、87.7%の児童が肯定的にとらえているが目標の90%には届かなかった。あいさつを進んでする習慣がつかない児童を今後も継続していく。また、「よりよい学校、学級にしようがんばっている。」については、直接的な質問以外にも、具体的な表現でも質問を実施したが、同様に80%から90%の間の回答率であった。他者を意識した主体的な活動はできていないようであった。	①児童の不登校の未然防止に向けて、引き続き小中合同での不登校等支援会議及び小学校職員による生徒指導委員会の計画的な実施を進めていく。 ②「あいさつ」については、始業式で「2学期にがんばってほしいこと」として、子どもに提案している。下半期も具体的な取組を児童会と協議しながら、考えていく。「よりよい学校、学級にしよう」については、掃除や委員会などの活動に職員も参加し、子どもたちの行動を称賛し、行動の価値づけを行うことで、学校や学級のために行動するよさを体験させるとともに、自分たちの行動の有効性を実感させるようにする。	○			学ぶ環境整備ができています。 不登校の児童だけでなく遅れがきたりする児童への手立ても充実させていくことを期待する。		
			・体験活動の充実(自然・文化・地域人材)	①地域の自然・文化・地域人材を生かした体験活動の実施	①各学年、年1回	①6学年中5学年	①6学年中5学年	①B	①1・2年は生活科の学習で、地域の図書館や図書館前の新設された公園を訪れたり、地域で山羊を飼っている家庭を訪問したりしていた。3・5年は総合的な学習の時間で、水辺教室やヒョウモンモドキの飼育活動を通して、地域の人を講師に招き、学習を行った。 6年は、ICT機器を活用し、総合的な学習の時間に地域調べの学習を行った。	①各学年で年間計画に基づき地域を生かした学習を進めた。4年生については、2学期に福祉センターと連携しての活動を予定している。 今後に向けて地域にどういった人材がおられるか記録として残していく。	○			地域の価値を考えさせる取り組みを実践していると感じた。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題の克服 食育の推進	・新体力づくりテストの分析に基づく体育科授業の工夫改善(全国平均以上を目指す。)	①新体力テスト課題種目の克服を図る。(50m走) ②児童アンケートを全学年で実施する。	①走力の向上(50m走の記録を全国平均結果より、記録を伸ばした児童の割合)75% ②肯定的な回答90%以上	①全国平均以上の児童の割合は59.2%であったが、学年全体として男女ともに走力が全国平均を上回った。引き続き、体育に関する指導計画に沿って取り組む。 ②朝食を毎日摂る93.9%	①79.2%(R4年度との比較) R5年度の全国平均の記録が届き次第、比較する。 ②朝食を毎日摂る104.3%	①C ②A	①週に1度昼休憩を長くし、外遊びの時間をしっかりと、身体を動かすことを進めてきた。運動が苦手な児童には、児童会を中心に、いろいろな遊びや運動を紹介していく。 ②朝食を毎日摂る児童が93.9%、ほとんど朝食をとれていない児童が6.1%である。就寝時刻が遅い児童が朝食を摂れていない傾向がみられた。 食育については栄養教諭と連携を取り、各学年の発達段階に応じて栄養指導に取り組んでいる。また、高学年の家庭科は中学校の家庭科教諭が担当し、指導をしている。	①引き続き外遊びを奨励していく。また、全校で短縄跳びに取り組めるように、縄跳びカードを配布し、学級活動や体育の授業で実施する。 ②多くの児童が朝食を摂っていると答えている。しかし、朝食を十分に摂ることができていないと答えている児童もいる。朝食の大切さについて学級指導や、学級懇談会等の場を活用して児童の意識の向上を図るとともに保護者への啓発を行っていく。また、栄養教諭との連携や委員会活動の機会を生かして基本的な生活習慣の大切さについての意識の向上を図っていく。また課題のある児童については保護者との個別の連携をとり、課題の解決に向けた取組を勧める。	○			学力向上とつながりのある運動能力を大切にしていることはよい。 取組の成果を見るときに、評価をする基準に合わせたものだけでなく、そこまでの取組を評価ができればよいと思う。
			・学校・学級・保健だよりの発行 ・連携教育だよりの発行 ・園小中連携・服務研修の充実(不祥事ゼロ) ・主任主事を中心とする組織的な学校運営	①各よりの発行(月1回以上) ②園小中の連携回数(年4回以上) ③計画的な服務研修の実施(月1回以上) ④小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100% ③100% ④100%	①100% ②上半期2回実施 ③100% ④100%	①100% ②100%(上半期2回実施) ③100% ④100%	①A ②A ③A ④A	①各便りを、計画的に発行し情報発信を行うことができた。 ②上半期にこども園との連携を2回行うことができた。 ③計画にそって服務研修を行うことができた。また必要に応じて臨時での服務研修を行った。 ④月1回の学校経営会議を計画に沿って行うことができた。	①下半期も行事の様子を知らせるなど、計画的な情報発信を行っていく。 ②下半期も継続して園小の連携を図る。(下半期1月、3月に連携の予定) ③計画的な服務研修の実施を継続する。 ④学校経営会議の場を有機的に活用し、出た意見を生かして小中の連携教育を進める。	○			地域と学校のつながりを大切に取組んでいると感じた。
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり 教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	・上限定時間(45時間/月) ・週1回の定時退校日の徹底 ・組織的・計画的な学校運営による効率化	①月の時間外在校等時間を45時間以内	①100%	①86.3%	①86.3%	①B	①職員で声を掛け合い、上限時間を意識した業務を進めることができた。しかし、上限時間を過ぎる職員もいた。学期末の業務の多くなる7月には、成績処理週間の取組などを行い、成績処理の業務にあてる時間を確保した。	①衛生委員会などで出た職員の意見を生かして日々の業務改善を行い、上限時間45時間を意識しながらやりがいをもって業務を進めることができるように組織的な取組を推進していく。	○			働き方改革の取組で様々な取組みをしていることが分かる。 児童のために必要なことだと思う。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】
A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100

【i:学校関係者評価 評価】
A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100

C: $60 \leq$ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。